

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02275

研究課題名(和文)古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる総合的実証研究

研究課題名(英文)On the religion and social welfare relations in ancient Near East

研究代表者

月本 昭男(Tsukimoto, Akio)

上智大学・神学部・教授

研究者番号：10147928

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,000,000円

研究成果の概要(和文)：時代を遡れば、遡るほど、人類の宗教と福祉の関連は密接になる。人類の古代文明の発祥の地メソポタミアにおいては、病氣治癒を司る神グラが祀られていた。治癒神観念はギリシアのアスクレピオスに引き継がれてゆく。孤児と寡婦を守るのは正義の神であり、王がそれを実践する責任を負った。古代メソポタミアのこの伝統は、後に、旧約聖書のモーセ律法にもとりこまれ、さらにそこに土地をもたない寄留者や貧者の保護が加えられた。これらは、主として、古代文献資料によって明らかにされた事実であるが、他方で、古代医学を含む社会福祉の実践は、出土する人骨の研究、病院とみられる建築遺構の発見などにより、明らかになることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代西アジアにおいて、病氣治癒をも含む社会福祉は宗教と密接に結びついていた。なかでも社会的弱者の保護は社会正義を司る神の命令として、王がその実践の責任を負っていた。このような古代の伝統は、聖書に受容され、さらに、そこに寄留者や貧しい者の保護が加えられた。このような宗教と福祉の密接な関係は、のちにキリスト教を介して近代の社会福祉思想へと継承されてゆく。今日では、政教分離の原則のもと、福祉と宗教は別領域として受けとめられているが、福祉を技術にとどめず、人間社会の基本の姿とするために、宗教と福祉の歴史的関連をあらためて問い直す必要があるだろう。

研究成果の概要(英文)：In ancient Mesopotamia, a cradle of human civilization, people worshiped a deity named Gula as their patron goddess of healing widely. The apothecary deity Asclepios took over the same function in ancient Greece. It is the deity of law and justice that protected orphans and widows, both representatives of the vulnerable strata of society. In fact, the king, on behalf of the deity, took charge of the divine justice. This kind of Mesopotamian tradition was accepted into the Hebrew Bible. In addition to that, the Bible further prescribes protection of the alien and the poor who were deprived of landowning. Although these phenomena were clarified mainly based on philological researches, it also became clear that the practice of social welfare including medicine could be uncovered by means of archaeological studies of human bones as well as architectural remains that are to be interpreted as ancient clinics.

研究分野：古代オリエント学、旧約聖書学

キーワード：治癒神 弱者保護としての正義 孤児と寡婦 寄留者保護 貧者保護

1. 研究開始当初の背景

本研究における「福祉」とは、日常生活に支障をきたす障害を負った人々また社会的に弱い立場におかれた人々を保護する実践とその思想を指す。その学術的背景には、考古学、神話学、文献学の3分野におけるこれまでの研究の蓄積が認められる。

考古学上の背景は、1950年代から60年代にかけてイラク北端のシャニダールの洞窟の調査を実施した米国の考古学者R・ソレッキにはじまる。彼がそこで発見したネアンデルタール人の人骨は、その人が深刻な関節異常を有しながら、50歳代まで生きたことを示していた。彼はそこから、すでにネアンデルタール人社会が障害者を大切にしていた、と結論付けた(R.ソレッキ著・香原志勢他訳『シャニダール洞窟の謎』蒼樹書房、1977年[原著1971])。それ以来、西アジアにおける発掘調査において、出土する人骨の綿密な観察が実施され、ほかにも障害を負った成人の存在が知られるようになった。また、頭骨などに人工的な手術を施したと判断される痕跡も指摘される。しかし、こうした事例はいまだ調査報告の段階にとどまっており、地域・時ごと代の分布や頻度などを総合的考察はなされていない。いわんや、その背景となる社会と文化に関する研究は皆無である。考古資料には、他にも、たとえば大英博物館が所蔵する片足の人物像(WA 1980-11-12 12012、ラキシユ出土、前15世紀)のように、保護や支援を必要とする人物を描いた図像がこれに加わる。それらの組織的収集と分析もいまだ実施されていない。

神話学上の背景とは、文献学上の背景と重なる面をもつが、神話にみる身体的欠損を抱えた神の役割、あるいは無能な人間をめぐる物語の意味などをめぐる議論である。たとえばシュメル語神話『エンキとニンマハ』によれば、創造神エンキが創造した人間は、当初、肢体の不自由な存在であったが、最後には、この不完全な人間が神殿を建立したという(月本昭男『古代メソポタミアの神話と儀礼』岩波書店、2010年)。こうした神話自体はアッシリア学内部では知られているが、「福祉」という観点からの比較神話学的探究や社会史的考察はいまだ実施されていない。また、たとえばギリシア神話にみる両足の曲がった奇形の鍛冶神ヘパイストス、盲目の都市女神テューケーなどの類似例がオリエント神話と古代オリエント神話の比較研究も今後の研究課題とされてきた。

文献学上の背景は多岐にわたる。その一つは「孤児と寡婦」に代表される社会的弱者保護の伝統の宗教的根拠をめぐる理解に関わる。古代メソポタミアではすでに前2350年頃のシュメル語碑文に、都市ラガシュの王ウル・イニムギナが「孤児と寡婦」を守ったことが報告されている。支配者による「孤児と寡婦」の保護の伝統は、その後、ハンムラビ法典(前18世紀)にも引き継がれ、旧約聖書の社会法に取り込まれた。旧約聖書の申命記法はそこに「寄留者」の保護を加え、その根拠をイスラエルの民がエジプトの「奴隷」ないし「寄留者」から解放された民であったことにおく。メソポタミアにおける「孤児と寡婦」保護の伝統は中期アッシリア法(前13世紀)やシリアの契約文書(前12世紀)などに引き継がれてゆく。その背後には「正義と公正」(アッカド語 *kittu u mišarūtu*)という観念が横たわるが、それはどのような宗教観念に裏打ちされていたのか、という課題が残されている。

2. 研究の目的

現代でこそ福祉は国家と社会の政策課題となったが、ごく最近まで、福祉は宗教と切り離せない関係にあった。歴史に現れる福祉活動の多くは、西欧における病院やホスピスであれ、日本における悲田院であれ、宗教思想によって基礎づけられていた。本研究の目的は、そうした事実をふまえ、まずは文明発祥の地と言われる古代西アジア地域における宗教と福祉の相互関係を資料に基づいて解明することに向けられる。この地域には楔形文字をはじめとする文書資料が豊富に残り、19世紀中葉から考古学資料も蓄積されてきた。この地に展開した文化はヘブライズム、ヘレニズム、イラン・インド思想、イスラームへと引き継がれてゆく。本研究は、したがって、宗教と福祉の相互関係について、その重要な源流のひとつを明らかにすることになるだろう

3. 研究の方法

本研究課題は考古学班、神話学班、文献学班の共同研究である。各班とも研究課題に関連す

る資料収集からはじまる。考古学班は調査報告書に加え、考古資料を所蔵する現地および欧米の博物館所蔵の資料を、神話学班は様々な言語で公刊された神話資料を、文献学班は公刊された文献資料に加え、現地および欧米の博物館所蔵の未公刊文書を収集する。各班は収集資料のデータ化と整理分析を行い、初年度後半以降、2,3 か月ごとに開催する共同研究会の場で公表し、それらの資料評価を行い、古代西アジア社会の「宗教と福祉」に関する理解を深めてゆく。最終年度は、このような共同研究を継続し、論集『古代西アジア社会における宗教と福祉』(仮題)の刊行に備える。

4. 研究成果

時代を遡れば、遡るほど、人類の宗教と福祉の関連は密接になる。人類の古代文明の発祥の地メソポタミアにおいては、病気治癒を司る神グラが祀られていた。治癒神観念はギリシアのアスクレピオスに引き継がれてゆく。孤児と寡婦を守るのは正義の神であり、王がそれを実践する責任を負った。古代メソポタミアのこの伝統は、後に、旧約聖書のモーセ律法にもとりこまれ、さらにそこに土地をもたない寄留者や貧者の保護が加えられた。

これらは、主として、古代文献資料によって明らかにされた事実であるが、他方で、古代医学を含む社会福祉の実践は、出土する人骨の研究、病院とみられる建築遺構の発見などにより、明らかになることが判明した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 月本昭男	4. 巻 67巻7号
2. 論文標題 虐げられた者たちは救いで飾られる 詩篇149篇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 66～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月本昭男	4. 巻 67巻8号
2. 論文標題 すべて息吹あるものは 詩篇150篇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 66～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月本昭男	4. 巻 33巻11号
2. 論文標題 「苦難の僕」とは誰か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福音宣教	6. 最初と最後の頁 21～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利（長谷川修一、市川裕ほかと連名）	4. 巻 25巻
2. 論文標題 イスラエル国テル・レヘシュ新出土初期シナゴグの考古学的・宗教学的的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 46～49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田 大輔	4. 巻 6
2. 論文標題 Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bel-gabbe II, King of the Land of Mari	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 DUBSAR	6. 最初と最後の頁 409 ~ 437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜 和也	4. 巻 11
2. 論文標題 People and Graves Before Settlement: Pursuing Early Bronze Age Mobility at Rumeilah on the Middle Euphrates	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Congress Volume of International Association of the ANE	6. 最初と最後の頁 173 ~ 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月本 昭男	4. 巻 1
2. 論文標題 共感 転換への意志 聖書の世界から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 サティシュ・クマール著『人類はどこへいくのか』(ぶねうま舎)	6. 最初と最後の頁 239 ~ 259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月本 昭男	4. 巻 1
2. 論文標題 宗教の誕生	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月本昭男編『宗教の誕生』(山川出版社)	6. 最初と最後の頁 3 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月本 昭男	4. 巻 1
2. 論文標題 メソポタミアの宗教	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月本昭男編『宗教の誕生』（山川出版社）	6. 最初と最後の頁 102～132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Shibata	4. 巻 2
2. 論文標題 Die sumerischen exegetischen Epitheta des Marduk	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 S. Fink et als., eds., Mehrsprachigkeit: Vom Alten Orient bis zum Esperanto	6. 最初と最後の頁 195～208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Shibata	4. 巻 1
2. 論文標題 An Expedition of King Shalmaneser I and Prince Tukulti-Ninurta to Carchemish	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Y. Haffron et als., eds., At the Dawn of History	6. 最初と最後の頁 491～506
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田 大輔	4. 巻 1
2. 論文標題 古代メソポタミア；国家、神殿、学識者	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 柴田大輔他編『イスラームは特殊か：西アジアの宗教と政治の系譜』	6. 最初と最後の頁 35～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田 大輔	4. 巻 1
2. 論文標題 ヘレニズム時代のバビロニア神殿：古代文明の継承と新しい潮流	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 柴田大輔他編『イスラームは特殊か：西アジアの宗教と政治の系譜』	6. 最初と最後の頁 133～153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村 一男	4. 巻 1
2. 論文標題 古代オリエントを中心とするユーラシアの神話概説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 須藤寛史他編『古代オリエント カミとヒトのものがたり』（岡山市立オリエント美術館）	6. 最初と最後の頁 8～10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村 一男	4. 巻 1
2. 論文標題 ギリシア・ローマの死生観と死後世界	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大城道則編『死者はどこへいくのか』（河出書房新社）	6. 最初と最後の頁 34～64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本 英利、小野塚 拓造	4. 巻 141号
2. 論文標題 聖書考古学の焦点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊 考古学	6. 最初と最後の頁 61～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜 和也	4. 巻 1
2. 論文標題 シリア青銅器時代のモニュメント：記憶・社会・権力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本西アジア考古学会第22回総会・大会要旨集	6. 最初と最後の頁 13～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜 和也	4. 巻 126編第5号
2. 論文標題 西アジア・北アフリカ 古代オリエント（二）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『史学雑誌』第126編第5号	6. 最初と最後の頁 280～284
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月本昭男	4. 巻 68巻7号
2. 論文標題 聖書は読者の価値観を映し出す	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 6～11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 1
2. 論文標題 Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bel-gabbe II, King of the Land of Mari	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Festschrift fuer Helmut Freydank zum 80. Geburtstag	6. 最初と最後の頁 409～437
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 1
2. 論文標題 The Gods of Tabetu during the Middle Assyrian Period and their Genealogy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Melanges assyriologiques en l'honneur de Dominique Charpin	6. 最初と最後の頁 943 ~ 975
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 1
2. 論文標題 古代西アジアにおける世界と魂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界哲学史	6. 最初と最後の頁 44 ~ 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 1
2. 論文標題 古代メソポタミアの一神教	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一神教世界の中のユダヤ教	6. 最初と最後の頁 31 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村一男	4. 巻 5
2. 論文標題 Theories of Diffusionism: Myth and/or Reality?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Comparative Mythology	6. 最初と最後の頁 44 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村一男	4. 巻 18
2. 論文標題 文化による神話図像表現の違いとその理由	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 万葉文化館研究年報	6. 最初と最後の頁 7～18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利	4. 巻 11
2. 論文標題 The Excavations at Tel Rehesh, Israel: The Results of 2013-2017 Seasons	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East	6. 最初と最後の頁 79～80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田澤恵子	4. 巻 12
2. 論文標題 Water in the Ancient Egyptian Myths	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 12th Annual International Conference on Comparative Mythology	6. 最初と最後の頁 34～35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 11
2. 論文標題 People and Graves Before Settlement: Pursuing Early Bronze Age Mobility at Rumeilah on the Middle Euphrates	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East	6. 最初と最後の頁 173～174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 田澤 恵子
2. 発表標題 Water in the ancient Egyptian myths」12th Annual International Conference on Comparative Mythology
3. 学会等名 国際神話学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田 大輔
2. 発表標題 A Middle Assyrian Manuscript of a Therapeutic Treatise: “Prescriptions of Adapa”
3. 学会等名 国際アッシリア学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田 大輔
2. 発表標題 古代メソポタミアの王権：神々、王、知識人
3. 学会等名 日本オリエント学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下釜 和也
2. 発表標題 People and Graves Before Settlement: Pursuing Early Bronze Age Mobility at Rumeilah on the Middle Euphrates
3. 学会等名 国際西アジア考古学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村一男
2. 発表標題 一つ目怪物と英雄の戦闘の物語の起源をめぐって
3. 学会等名 理化学研研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 月本昭男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 175
3. 書名 物語としての旧約聖書(下)	

1. 著者名 月本昭男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新教出版社	5. 総ページ数 329
3. 書名 詩篇の思想と信仰(VI)	

1. 著者名 月本昭男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 168
3. 書名 物語としての旧約聖書	

1. 著者名 月本昭男	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新教出版社	5. 総ページ数 415
3. 書名 詩篇の思想と信仰 (V)	

1. 著者名 松村一男	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 236
3. 書名 はじめてのギリシア神話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田澤 恵子 (Tazawa Keiko) (30598587)	(財) 古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	
研究分担者	津本 英利 (Tsumoto Hidetoshi) (40553045)	(財) 古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	
研究分担者	柴田 大輔 (Shibata Daisuke) (40553293)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松村 一男 (Matsumura Kazuo) (70183952)	和光大学・表現学部・教授 (32688)	
研究分担者	下釜 和也 (Shimogama Kazuya) (70580116)	(財)古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	
研究分担者	小野塚 拓造 (Onozuka Takuzo) (90736167)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・研究員 (82619)	